

事業所名	児童発達支援センターかぐや		支援プログラム		作成日：令和	6年	9月	1日
法人（事業所）理念	いたわりとやさしさ ～私たちはノーマライゼーションの実現に向けた未来づくりに貢献します。～							
支援方針	<p>児童発達支援センターかぐやは、通所支援である児童発達支援の提供を基本としながらも、子どもを取り巻く環境である「家庭（家族）」、そして「地域の教育・保育施設等」への後方支援を積極的に行うことにより、（当施設だけではなく）地域（圏域）全体の支援力の向上に寄与していきます。</p> <p><みよう、きこう、そして きづこう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと子どもを取り巻く環境をアセスメントする力と子どもの発信に気付ける力を養っていきます。 ・子どもや保護者との対話を大切に、信頼関係を築いていきます。 <p><指導ではなく支援をしよう、指導者ではなく支援者になろう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを成長させるのではなく、子ども自身の成長しようとする力を後押ししていきます。 ・保護者の日々の取り組みに寄り添い、ともに考えていける伴走者になることを目指します。 							
営業時間	8時	30分	から	17時	30分	まで	送迎実施の有無	あり
	支援のねらい				具体的取り組みの例			
本人支援	健康・生活	・生活習慣の安定・心の成長と安定・体の成長 ・日常生活スキルの獲得			・定期的な通所と基本的支援プログラムの恒常化・視覚的支援や構造化を取り入れた分かりやすさ・体全身を使った取り組み（散歩、サーキット、水遊び等）・定期的な排泄への誘導・手洗いの習慣化・適切な温度、湿度等の管理			
	運動・感覚	・姿勢の保持・基本的な動作の向上・五感への働きかけ・音楽との協調			・粗大運動・微細運動・全身運動・音楽との協調運動（リトミック）、サーキット、感覚遊び（スライム、水遊び、砂遊び、粘土遊び）・スヌーズレンによる感覚刺激・姿勢補助具の活用・感覚過敏等に対する環境調整			
	認知・行動	・分かること、考えること、適切な行動をすること			・日付、天気等の確認・時間割（予定）の確認・数や大きさを意識させる教材・分かりやすさに配慮した指示と促し（見やすさ：色、形、大きさ、余白、明るさ、速さ等、聞こえやすさ：大きさ、高さ、長さ、イントネーション等）・小集団による気づきの促し・適切な見本・環境調整による不適切行動の予防と制限			
	言語コミュニケーション	・意思の疎通、意思の表明の支援・言葉に頼らないコミュニケーション・言葉の発達の促し・聴く力の促し			・口の動きの模倣・シャボン玉や笛による呼気への意識づけ・言葉とあわせて表情や身振り、指さし等非言語コミュニケーションでの働きかけ・運動による腹圧の強化			
	人間関係社会性	・小集団での仲間意識、仲間づくり・支援者との信頼関係・周り（社会性）への意識と行動の調整			・安心感（安全基地）を意識した働きかけと環境調整・個々の特性に配慮した小集団での取り組み・遊びを通じて他者への関わりへの意識づけ			
家族支援	連絡帳や送迎時のコミュニケーションを通じ、ご家庭（ご家族）の様子、困りごとなどを伺います。必要に応じて、法人内で行っている短期入所や日中一時支援などにお繋ぎし、家族のレスパイトを支援します。地域障害児支援体制強化事業により、ご家族やきょうだい支援のためのイベント（茶話会・交流会）等を企画運営します。							
移行支援	保育施設への移行を意識しながら、集団生活に必要な力をつけていく取り組みをします。具体的な移行先が決まっている場合には、体験入園などを行いながら移行の準備をしていき、移行後も保育所等訪問支援や巡回支援においてフォローしていきます。地域での生活を意識し、子育て支援施設での体験も行っていきます。保育施設との並行通園での利用の場合は、母集団で取り組めない部分を補完しながら自信を高め、保育所等訪問支援も活用しながら母集団での活動を支援していきます。							
地域支援・地域連携	法人内他事業所と連携して地域障害児支援体制強化事業を実施します。圏域内の保育施設の巡回訪問のほか、支援者に対する研修会、スーパーバイズ・コンサルテーション、地域インクルージョン推進のための事業を行います。							
職員の質の向上	児童発達支援の実施毎に支援の振り返りを行い、次の支援へ活かします。巡回訪問の際に保育現場で行われている優れた取り組みを児童発達支援に活かします。法人内の人材を活かした内部研修を行うほか、専門的資格の取得や知識の獲得のため外部の研修にも参加します。							
体験・経験（行事等）	季節を感じられる活動（水遊び、夏祭り、クリスマス、ひな祭り等）を随時行います。定期的に散歩を行い、避難場所まで歩けること、支援者と手をつないで行動することに慣れるよう取り組みます。公的遊び場（公園、子育て支援施設等）の利用を通じ、視野と経験を広げていきます。							